

「 かわいい土砂災害 」

神奈川県 厚木市立上荻野小学校 5年 曽根 紬そね つむぎ

テレビで熱海市土石流災害のニュースを見ました。建物が流されあと形もなくなり、たくさんの人が亡くなったり行方不明になったりしているのを見てとてもこわいと思いました。するとお母さんが、

「家も雨がたくさんふったら危ない場所なんだよ。」

と教えてくれました。私は何も知らなかったのでもとてもおどろきました。

私の家は、山を切り開いた場所に建っています。山の上には木がたくさんあり昆虫などもいて自然がたくさんあります。五百件くらいの家が建っており友達もたくさん住んでいます。そんな平和で自然が豊かな場所で土砂災害が起こるかもしれないなんて信じられません。

私は、住んでいる地区の土砂災害のきけんについて調べてみることにしました。土砂災害とは、大雨や地しんが起きたときに、山やがけが崩れてたくさんの土や石などが建物をおしつぶしたり、水と混ざった土砂が建物をおし流したりする災害のことです。毎年全国で約一千件起きているそうです。

厚木市の土砂災害ハザードマップがあることを知り確認してみました。ハザードマップは色で危険な場所が分かるようになっています。私の住む地区は土砂災害けいかい区域(土石流)の色がついていました。それは一番危険なことをあらわす色をしていました。

土砂災害は人の命や住む場所を一瞬でうばってしまうとてもおそろしい災害です。でも、いつ起こるかわからない災害をずっとおびえているわけにはいきません。私は自分に出来ることを考えました。まず家族会議を開き雨がたくさんふってけい報が出たときにどうするかを話し合いました。私が住んでいる地区の避難場所は近くの中学校です。うちは両親が仕事をしていて、お姉ちゃんも高校生なので一人で留守番することが多いです。もし一人で家にいる時に避難指示が発令されたら、お母さんと連らくを取り合って中学校へ避難することを約束しました。中学校へはお母さんと何回か行ったことあるので道順はわかります。一人で留守番している時は、中学校で家族と待ち合わせることにしました。非常食、少しの着替え、タオルやカップ、少しのお金とケータイをいつでも持てるように避難袋として準備することにしました。

ハザードマップがあるおかげで、自分の住んでいる場所が危険な事やもしもの事を考えることができました。家族で話し合っが一番重要なことは、

「荷物や家はどうなってもいい。とにかく自分の命を守ること。」

と決めました。土砂災害について調べたおかげでもしもが起こったときにも落ち着いて行動できると思います。命を守るための行動を心がけようと思います。